

去る4月30日、館会館に於いて、柳セ川町内会が8回
総会が行なわれ、63年度の新役員が承認されました。
新役員は以下の方々です。よろしくお願ひいたします。

会長	倉田輝雄
副会長	小島仁、野島七三
書記	小林淳一
会計	野崎衛
監査	木村尚央
文化	山田浩一郎、岡元武士
保健衛生	藤原源蔵、杉田忠
広報	竹前恵美子、佐々木正四郎
防犯	伊藤文夫、大室侑子
子供会	野島七三、竹前恵美子

※敬称は
略します



班名	班 長	副 班 長
1	大橋 隆	中村 勝
2	伊藤文夫	小林淳一
3	杉田 忠	
4	山田浩一郎	岡元武士
5	高野和夫	山口 忠雄
6	藤原源蔵	
7	佐々木正四郎	立川真三
8	大室侑子	野崎 衛

楽しんでいきます♪

世をあげて、カルチャーブーム。物質的豊かさの時代から
心の豊かさを求めて、時代は確実に変化してきて
います。何はともあれ、どこの体育館も公民館も、
自身を高めようと積極的な女性(男性もいます!)たち
でいっぱい。今回は3人の方に登場していただきました。

短歌の会
"日記がわりに" 班 佐々木

私の楽しんで居ります短歌のお誘いをしたいと思います
私の入っておきます会は"さわらび短歌会"と申しまして、全
国月刊短歌誌「あさかけ」の関東支部の内の佐々木会で
ございます。

会員の皆様も様々な方々で"年令も22才~80才代まで"、巾
広くおられます。男性も、女性も共に和やかに楽しんでお
ります。数10年の教職経験者の方、又目下子育て中の方、又
私の様に何の取得もない者等、生活環境や経てきた人生も
様々な方々ですが、皆様、何のこだわりもなく、たのしんでお
ります。即、諸にいかがですか? 日記がわりに、又単なる
言葉あそびにと、お気軽にどうぞ、特に実年の方、お待ち
致しております。

"花を描く" 日本画 5班 杉原芳香

「おやすみなさい」子供たちが2階へ上ってゆくと、これから
主人が帰ってくる間(帰りがおそいので"感謝。")が制作
時間なのです。日本画をはじめ20年がたち、技術的な
進歩はあるようなないような……。しかし、「その時々
の自分の感情を色や形に託して、表現できる」との「花こび」が
これだけ長くついでにこれた原因なのでしょう。又、いっしょ
に学んだ仲間達との2年に1度の展覧会もはげみになり、
今年で8回目を迎えようとしています。
もともと風景画が好きでしたが、子育ての期間は、ス
ケッチに出られなかつたので、静物ばかり描いていました。
あかけブームの手にか花を描くのが好きになってしまい

会長あいさつ

旧役員の方々には一年間本当に御苦勞様でございました。私も会長に再選され、皆様のご希望には、到底
お答えできない事と自覚してはおりますが、微力ながら、柳
瀬川町内会発展のため、努力していく所存でござい
ます。

今後一層のご愛顧と御支援下さいまして、致らない事は、
よろしく御指導下さいませ。お願い申し上げます。

◎ お知らせ ◎

来る6月12日(日)63年度第1回
目の廃品回収を行います。

よろしく御協力下さい。

2班 川口様 横 様

広報部より 総会終了後すぐに出すつもりでしたが、
おそくなってしまい、誠に申し訳ありません。今回は、
"とりあえず"という形です。このようなかんたんなものに
なりました。次回は秋に出す予定ですが、もう少し充実し
たものにしたいと思っております。枚数も多くするつもりです。
皆様の投函を心からお待ちしております。

(4班 竹前まで)

ハッチに出られなかつたので、静物ばかり描いていました。
おかげで、いつのまにか花を描くのが好きになってしま
いました。外を歩くと、垣根越しに咲いている草花や、
景色の良さに目がとまり、あまりすばらしいと、次の機会
のために地図にメモしておきます。描きたいものが次から次
に出てきます。生涯つづけることになると思います。

"手作りの衣装で"フォークダンス班 清水

昨年の10月頃、市民体育祭でおなじみのオバサンのフォク
ダンスにさそわれて以来、すっかりのめいこにしてみました。
うづらは男女で踊るものですが、忙しいお父さんを尻目に
家庭婦人連盟の元に、時には世界各地の民俗衣装を
手作りして楽しく踊っています。運動量はもちろん十分、
それに加えて、少しだけカルチャーもしています。

皆さんがよくご存知の"マイムマイム"はイスラエルの国の
踊りで、井戸を掘って水が湧き出した時の喜びをあらわし
ているのだそうです。ハニガリー、ポーランド、ソ連、スイ
ス...等、行ったこともない、いろいろな国の文化に少し
ですが、ふれた思いがします。今年子供を小学校に入学
させた若いお母さん、大きいお孫さんがいるおばあ
ちゃん、若いも若きも手を取りあって、和気合々、楽しく
踊っています。私も遠くない将来おばあちゃんになっ
ても、自分で動けるうちは、いつまでも踊りの輪に加
わってほしいと思っています。